

動く世の中、視点を変えれば見えてくるものがある。ホンネで言いたいことがある。



瓦ばん！

平成24年1月1日発行 季刊

発行責任者：根っから地元派 ばん よしはる

ban-4@ares.eonet.ne.jp

第18号

新年、おめでとうございます。ばんよしはるです。皆様、新年をどのように迎えられましたでしょうか。

私は家族と共に新年を迎え、新たな気持ちになることができました。

さて、まず皆様にご報告しなければいけないことに、斑鳩町地域集会所施設補助金交付要綱の見直しが決定的に、本来前年の10月末までの受け付けですが、今年の6月末までに町で受け付けるとのことです。

地域集会所につきましては、地域住民のコミュニティに欠かせないものであるのに、資金面の問題で建てる事が困難であったり、築30年以上のものが町内に多くあり、集会所の立替やリフォーム等が必要となってきました。集会所施設の整備には多額の費用がかかることから、これまで議会からなんとかならないものか要望をしてみました。

具体的には、土地及び建物の補助率を現状の2分の1から3分の2に引き上げるとともに、土地と建物の新築及び既存建物の購入については、補助金の限度額を1500万円から2000万円に引き上げ(増築及び改築は500万円、修繕は300万円、高齢者、障害者に配慮した改造は300万円は現行のまま)そして、施設に必要な備品についても、新たに補助対象とし、品目は、机、椅子、テレビ、冷蔵庫で5万円以上70万円までの購入に対して補助率3分の2で補助をするものであり、これらの補助制度の拡充により、地域単位の活動拠点の充実が図れるものになりました。

また、福祉の面でも現在のコミュニティバスでは行き届かない部分、具体的にはご高齢の方々の買い物や通院などに対し、外出していただきやすい環境を整備することを推進するための提案をさせていただきますので応援の程、宜しくお願いいたします。

その中で、気をつけなければいけないことは、町財政に負担をかけないようにすることであり、いろんな施策をあれもこれもできる時代ではないことです。

やはり、住民それぞれが行政が行う事業それぞれの目的がしっかりしているかを見定め、正しい選択がなされているかをチェックしながら、いろんなことに対し積極的に新しい提案をしていけば今後さらに「元気なまち」になるはずですよ。

たとえ一時的には「痛みをともなう」こととなっても勇気を持って新しい時代にふさわしい形に行政の仕組みを変えていくことが大切ではないでしょうか。

まちの未来は、住民一人ひとりの想いで変えられるということです。



この「瓦ばん！」では町議会議員の毎日の中で感じたこと、活動や思ったことを紹介していきますので、皆様からのご意見・ご感想がありましたら、お知らせ下さい。宜しくお願いいたします。